



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/01/28

あっさり黙示録 #50
大バビロンの世界観と罪の本質
黙示録 18章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

お元気ですか。高原剛一郎です。今日はあっさり黙示録 50 回目です。

私が会社に勤めて間がなかった頃、出張帰りの新幹線の中で、中学時代のクラスメートにばったり会ったんです。久しぶりでお互い懐かしく、梅田に出て、丸い形をしたマルビルのスカイレストランと一緒に食事をしました。ちょっとリッチな夕食で、当然割り勘と思っていたら、「いや、高原。今日は俺に奢らせてくれ。」そして小声で「実は宝くじ当たった。100万円。だから5千円くらい大したことないから。」彼がごちそうしてくれたんですね。

「次は私がごちそうするから」と言って別れたんですが、それから何年も会わずにいました。

ところが、またしても数年後に、梅田でばったり会ったんです。「今度は僕がごちそうするから、ご飯でも行こうよ。」「いやいや大丈夫。実はな、当選したの100万とちゃうねん。1000万当たった。」ビックリしましたねえ。なぜ100万円と少な目に言ったかということ、そのように言いなさいと銀行でアドバイスされたから。

宝くじの高額当選者は別室に呼ばれ、『【その日】から読む本』という冊子を渡されるんです。その本には、舞い上がって人生を誤ることがないように、冷静な日常を送るためのアドバイスが書いてあるんですね。1000万だから高額当選者の中に入らないんですが、なんせ20代前半ですから、この若者が苦労なしにいきなりお金を手に入れたらどんなことになるか、銀行が心配なさったんでしよう。それで知恵を授けたんです。

「1/10に換算して、そのイメージでいなさい。1000万当選したんじゃない。100万円当たったと思いなさい。」これは、彼を冷静にするのに大変役立った知恵となったそうです。

1億・3億・5億・10億円。高額当選者の中には、いきなりお金が転がり込んで来て良い人生になるより、むしろ愚かな選択をして破綻してしまう人がいる。

もっともっと多くの財産を持ちながらも、お金の振り回されることがない億万長者や実業家はたくさんいる。いったいどこが違うんでしょう。

苦労して大金持ちになった人は、苦労する中で、お金の管理能力を身に付けているのです。

だから、お金があっても正しく使うことができる。

しかし、管理能力がないのにいきなりお金が転がり込んでしまうと、お金の振り回されて愚かな使い方をしてしまい、残念な結果になることがままあるんですね。

人間が神のようにすごい能力を手に入れたら幸せになるだろうか。1億・3億・10億どころじゃない、神のような知恵・知識・権力・能力・権威が、私のこの未熟な人格のままドサッと転がり込んで来たら、私はそれを正しく使うことができるだろうか。傍若無人な専制主義者になって、自分も他人をも不幸にしてしまうのではないか。神の能力を持ちながら、しかも祝福だけを周りに与えることができるのは、神の人格を持っている者だけです。

つまり、神だけが神の能力を正しく持つことがお出来になる。

これと正反対の存在がサタン・反キリスト、そして反キリスト帝国の大バビロンなんですね。神でないのに大きな力を手に入れ、やりたい放題の限りを尽くすのですが、それは人類歴史上最も不幸な時代になるのです。

さて、**黙示録 18 章**は大バビロンの崩壊について解説していますが、今日は、大バビロンの罪の本質を見事に言い表している箇所を紹介します。

黙示録 18 章

5 彼女（大バビロン）の罪は積み重なって天に達し、神は彼女の不正を覚えておられるからです。

聖書で最初にバビロン・バベルが出てくるのは“バベルの塔”建設の記事です。

「レンガを積み重ねて、天まで届くような塔を建てよう。そして我々の名を上げよう。我々は神のようになろう」ということで造ったのがバベルの塔。実際、レンガを積み上げて天に届くことはないでしょう。しかし、神のようになりたいという、ブレーキの壊れたこの欲望は、罪が積み重なって遂に天に届いたというんですね。5 節はバベルの塔を連想させるような罪の描写です。

その罪の内容をもっと端的に言い表しているのが 7 節。

7 彼女が自分を誇り、ぜいたくにふけた分だけ、苦しみと悲しみを彼女に与えなさい。彼女は心の中で『私は女王として座し、やもめではない。だから悲しみにあうことはない』と言っているからです。

バビロンの罪をひと言で言うと、心の中で『私は女王として座し、やもめではない。だから悲しみにあうことはない』と言っている。これが大バビロンの罪のエッセンス、罪の本質なんですね。

「私は女王として座し、やもめではない。だから悲しみにあうことはない。」

これは黙示録で初めて出て来るセリフではなく、旧約聖書の引用です。

旧約聖書の**イザヤ書**という預言書に、終末時代に登場するバビロンの預言が書いてあります。

その中に、このセリフを言うであろうこと、罪の本質はこのセリフに要約されていることが解き明かされているのです。

イザヤ書 47 章

7 あなた（バビロン）は『いつまでも女王でいよう』と考えて、これらのことを心に留めず、自分の終わりを思うことさえしなかった。

8 だから今、これを聞け。楽しみにふけり、安心して住む女よ。心の中で、『私だけは特別だ。私はやもめにはならないし、子を失うことも知らなくてすむ』と言う者よ。

これは、バビロンが最後 滅びてしまうという預言です。

「いつまでも女王でいよう」と考えて（**イザヤ書 47:7**）→「私は女王として座し」（**黙示録 18:7**）。「私だけは特別だ。私はやもめにはならないし、子を失うことも知らなくてすむ」（**イザヤ書 47:8**）→「やもめではない。だから悲しみにあうことはない」（**黙示録 18:7**）

これのどこが罪なのでしょう。私だけは特別だ。実は、この訳は正確じゃないんです。

完全に意識なんです。翻訳者が本文を直訳するのではなく、読者に分かりやすいように、この訳に変えてしまったんです。直訳は「**私だけ。他にはいない。**」私だけ。ただ私だけ。他にはいない。

「**私だけ。他にはいない**」という表現は**イザヤ書**に8回出て来ます。6回は神のセリフ。2回はバビロンのセリフ。神がこの言葉を使う時はいつも、ご自分の至高性・唯一性を強調するために、特別に使う言い回しです。

イザヤ書 45 章

**5 わたしが主である。ほかにはいない。わたしのほかに神はいない。
あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに力を帯びさせる。**

わたしが主である。ほかにはいない。わたしのほかに神はいない。

この言葉が6回出て来ます。この言い回しによって、神はご自分の唯一性を強調して自己紹介をしている。この神の自己紹介をそっくりそのままパクって、バビロンは自己紹介をしているのです。「バビロン・反キリスト・サタンこそが神なのだ。」だから、これが罪の本質だと言うのです。

神でないにも拘らず神のように振る舞った結果、艱難時代という人類史上未曾有の大不幸の時代がやって来る。あらゆる不品行・不正・流血・悪徳の闇は、神でない者が神のように振る舞うことによって作り出された世界の特徴であり、反キリストのスピリッツです。

このミニチュア版が統一教会の文鮮明（ぶん せんめい）であり、世界中の独裁国家の独裁者たちだと言えるのです。

では、本当の神の特徴は何でしょう。約2000年前、神のひとり子が人として貧しくなり、家畜小屋で生まれてくださったことから分かるように、神の本質は**謙遜**なんです。

だれよりも偉大な方は、だれよりも低くなられた。この神は謙遜の神。心優しくへりくだった方。同じようにへりくだる人に目を留めてくださる。それが神です。

2000年前、まずへりくだって、救い主としてこの世界に来てくださったキリストは、次は**携挙**するために空中まで来られると聖書は約束しています。

私はあっさり**黙示録**にコメントを入れてくださった方には、できるだけお返事を書くようにしています。特に質問には答えるようにしていますが、それは携挙までです。

携挙があれば、私はもうこの地上におりませんので、動画だけが流され続けることになるでしょう。私の願いは、一緒に携挙に与っていただくことです。

神は私たちが救いたいのです。あなたを祝福し、あなたを愛し、あなたのために立てている特別に祝福されたプランの中に、あなたを入れたいと願っておられます。**黙示録**のメッセージはときに恐ろしいのですが、「そんなところに行かないように！」という裏のメッセージでもあるんですね。

ぜひイエス・キリストをご自分の救い主として受け入れてください。心からお勧めします。

チャンネル登録もお願いします。ではまた とうちゃんねるでお会いしましょう。

それまで皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社 2017